

世界が進むチカラになる。



経済調査

欧州景気概況(2025年7月)

2025年7月2日

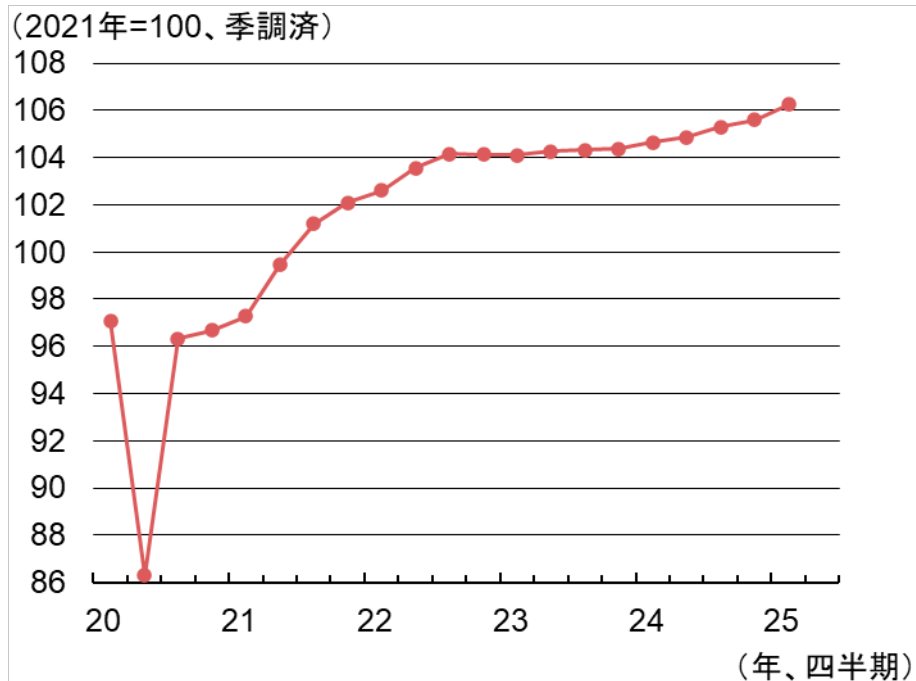
調査部 主任研究員

土田 陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は拡大している

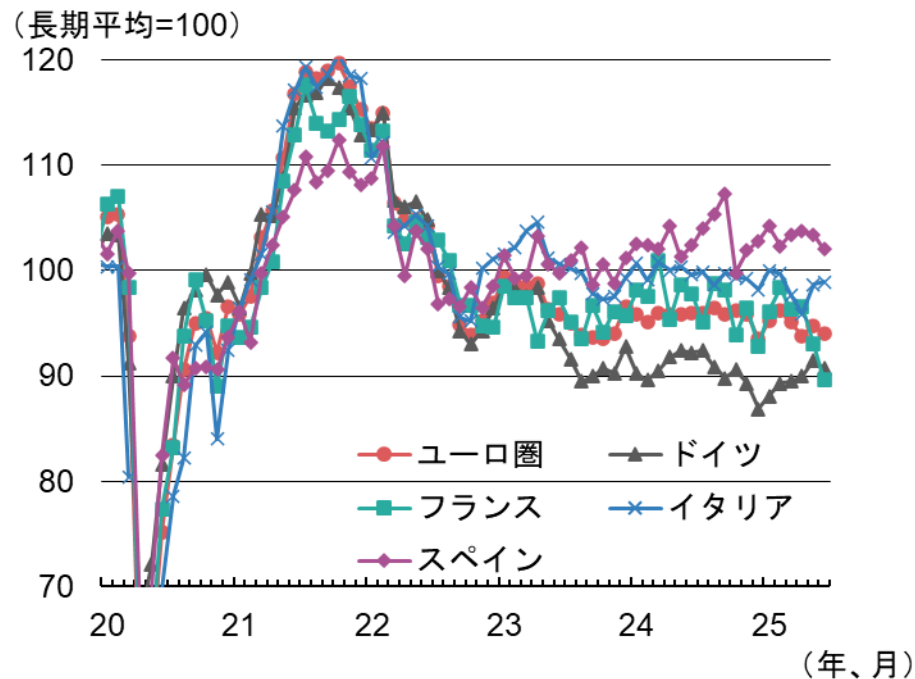
ユーロ圏の2025年1-3月期の実質GDP(確報値)は前期比+0.6%と、24年10-12月期(同+0.3%)から増勢が加速した。国別にはスペインが堅調(同+0.6%)を維持し、イタリア(同+0.3%)が2期連続でプラスとなった。またドイツ(同+0.4%)とフランス(同+0.1%)が再びプラスになった。一方、最新6月の景況感指数は94.0と再び低下した。

実質GDP



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

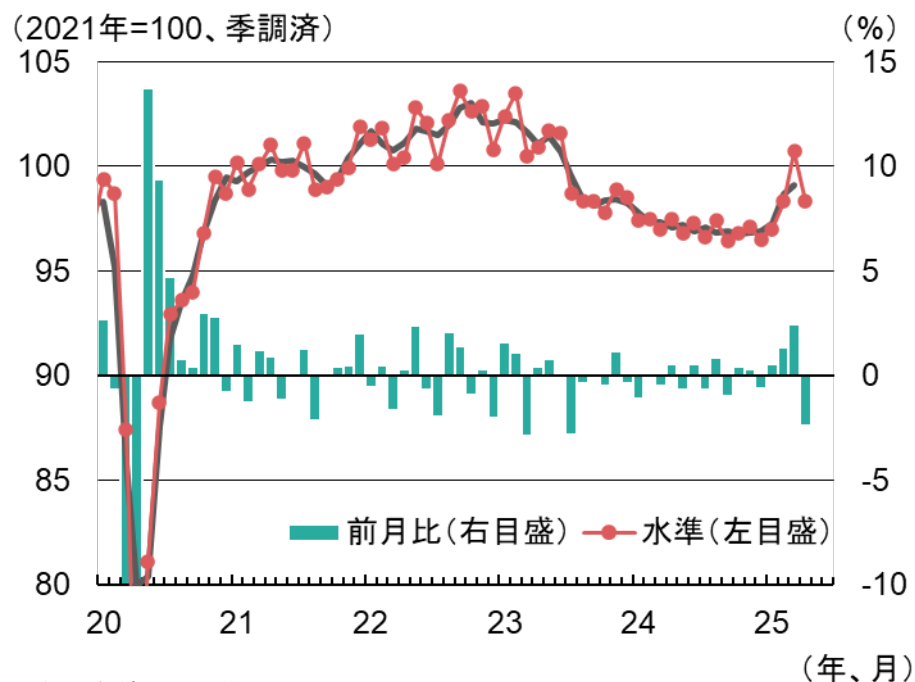


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は回復している

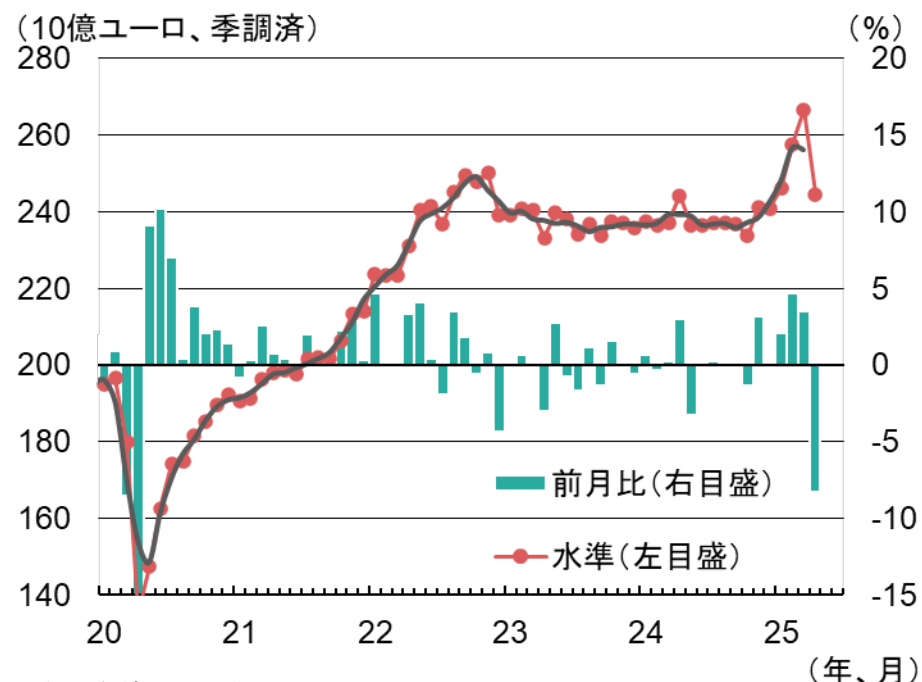
ユーロ圏の4月の鉱工業生産は前月比▲2.4%と反落するも、均した動きは上向きを維持。一方で、同月の名目輸出も同▲8.2%と急落し、均した動きも横向きに。米トランプ政権による「相互関税」(トランプ関税)の発動を目前とした駆け込みの反動減が生じたもよう。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

名目輸出

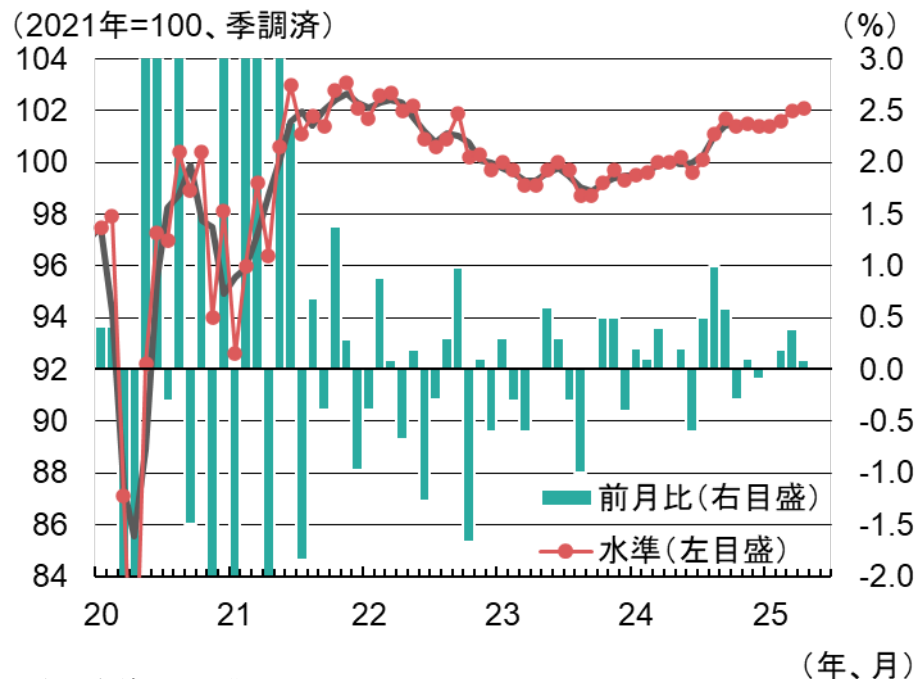


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は回復している

ユーロ圏の4月の小売数量は前月比+0.1%と3カ月連続で増加し、均した動きは上向き。一方で、4月の新車販売台数は前月比+3.0%の年率937万台と再び増加し、均した動きは上向き。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

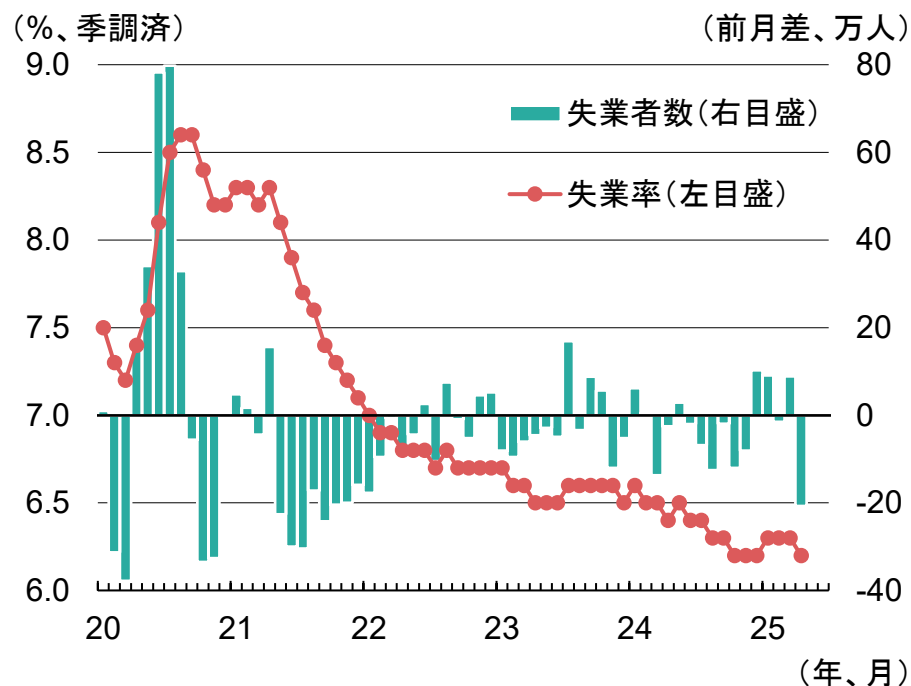


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は完全雇用の状態である

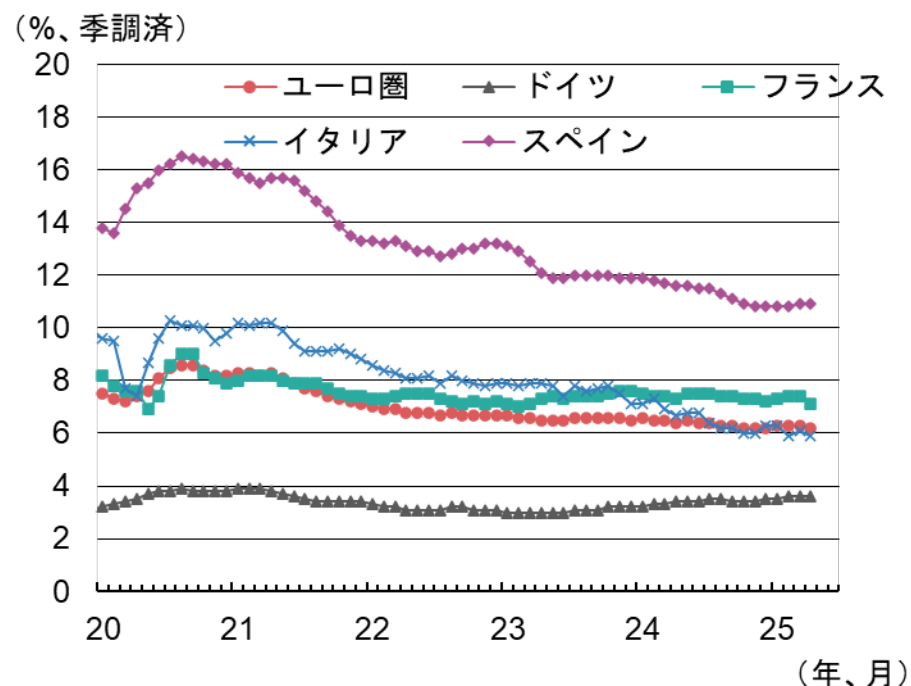
ユーロ圏の4月の失業率は6.2%と再び低下した。一方、同月の失業者数は前月差20.7万人減と再びマイナスとなったが、均して判断すると、雇用は完全雇用の状態であると考えられる。主要国別に失業率を見ても、各国とも横ばい圏での推移となっている。

失業率と失業者数



(出所) ユーロスタット

主要国別失業率

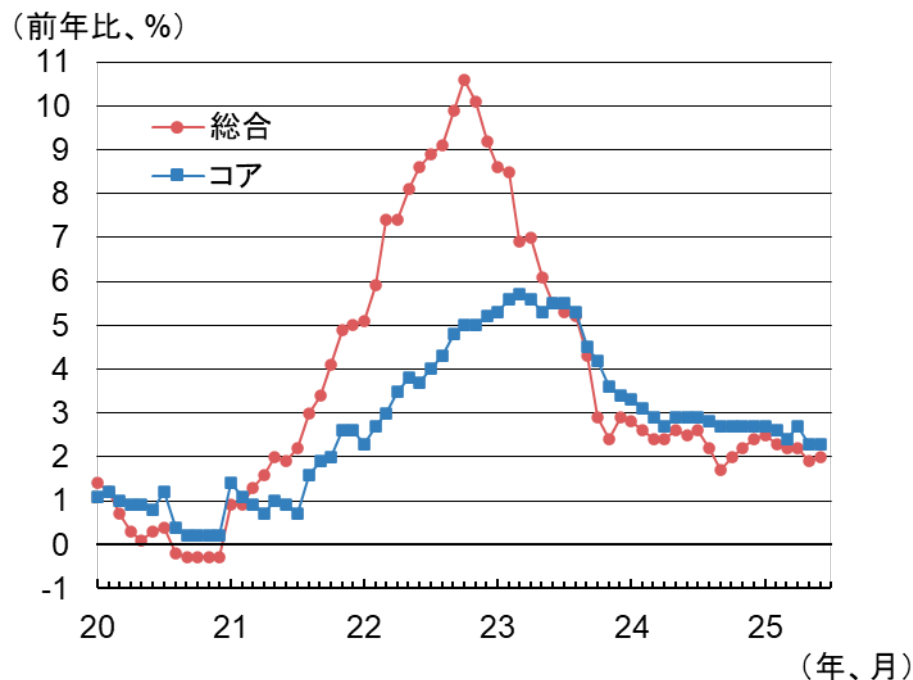


(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレは安定している

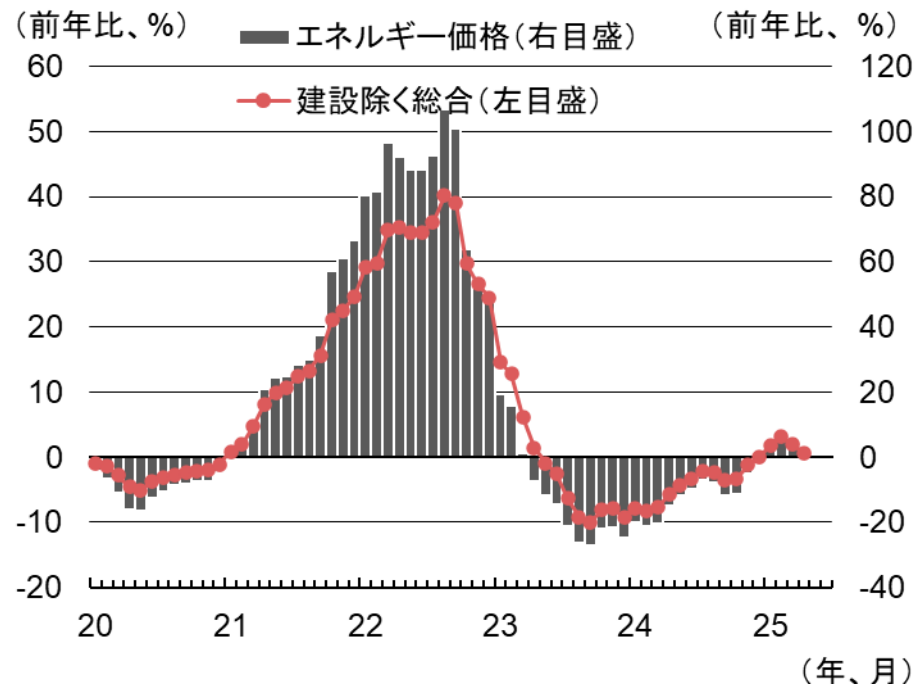
ユーロ圏の6月の消費者物価は総合ベースで前年比+2.0%に、また変動が激しい項目を除いたコアベースは同+2.3%にとどまり、インフレは安定していると判断される。一方で、生産者物価（建設除く総合）は、4月時点で前年比+0.7%と前月（同+1.9%）から伸び率が低下した。

消費者物価



(出所) ユーロスタット

生産者物価

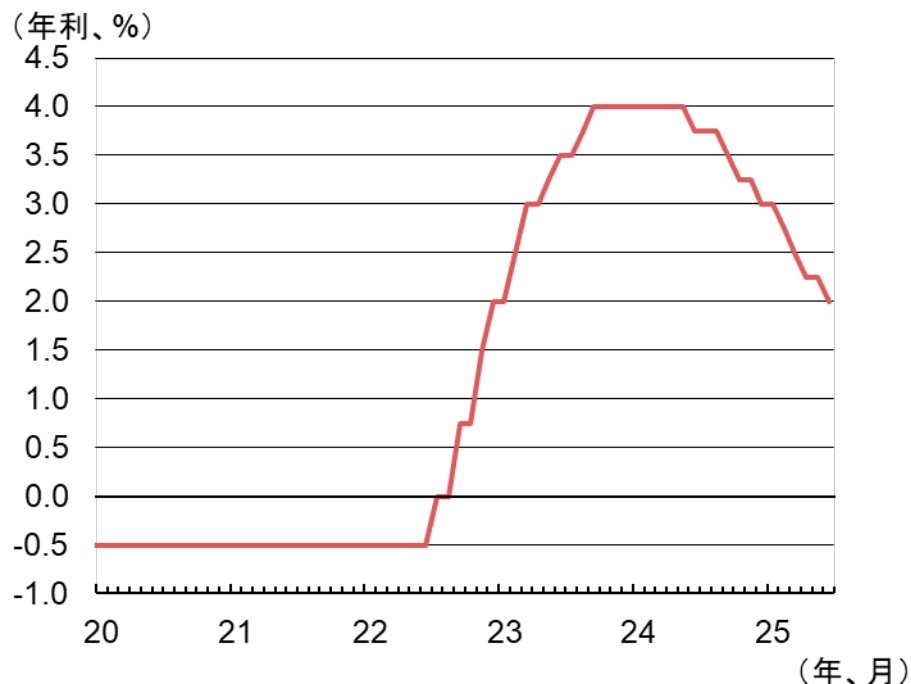


(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは6月理事会で金利を引き下げ

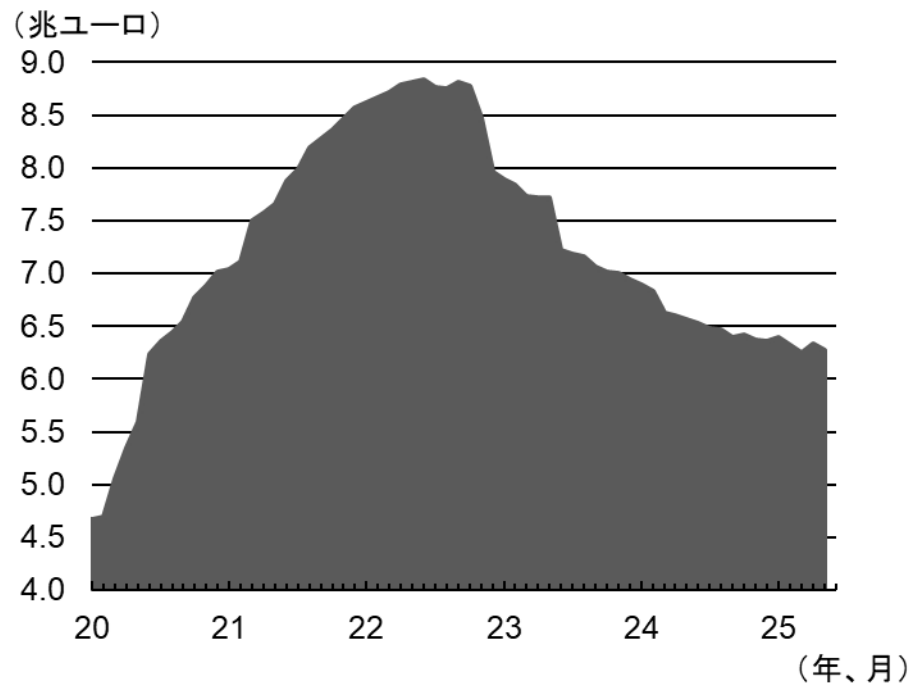
欧州中央銀行(ECB)は6月5日に開催した政策理事会で、事実上の主要政策金利である預金ファシリティー金利を引き下げ、年2.00%とした。クリスティーヌ・ラガルド総裁は利下げの停止を示唆し、これまでの利下げの効果を見定める姿勢を強めている。次回の理事会は7月24日を予定。

政策金利(預金ファシリティー金利)



(出所) ECB

ユーロシステムのバランスシート

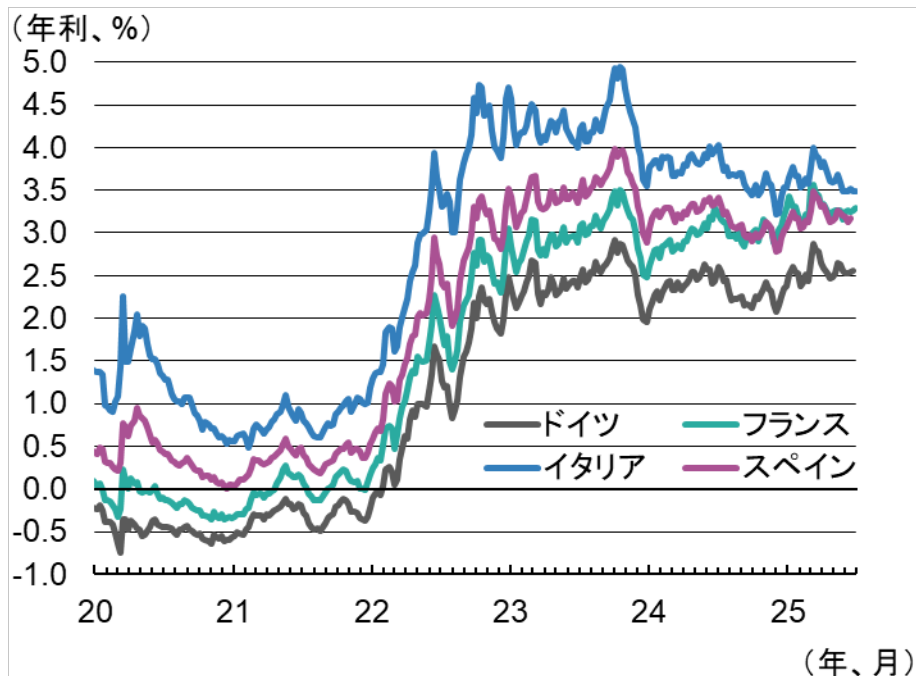


(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は横ばい

6月のユーロ圏主要国の長期金利は上昇。イラン情勢の緊張が緩和したことで金利が上昇に転じた。一方で、同月の株価は横ばい。月前半はイラン情勢の緊張で株価は下落したが、月後半はその緊張が緩和して株価が持ち直した。

10年国債流通利回り



(出所) 各国中銀

株価(Eurostoxx50)

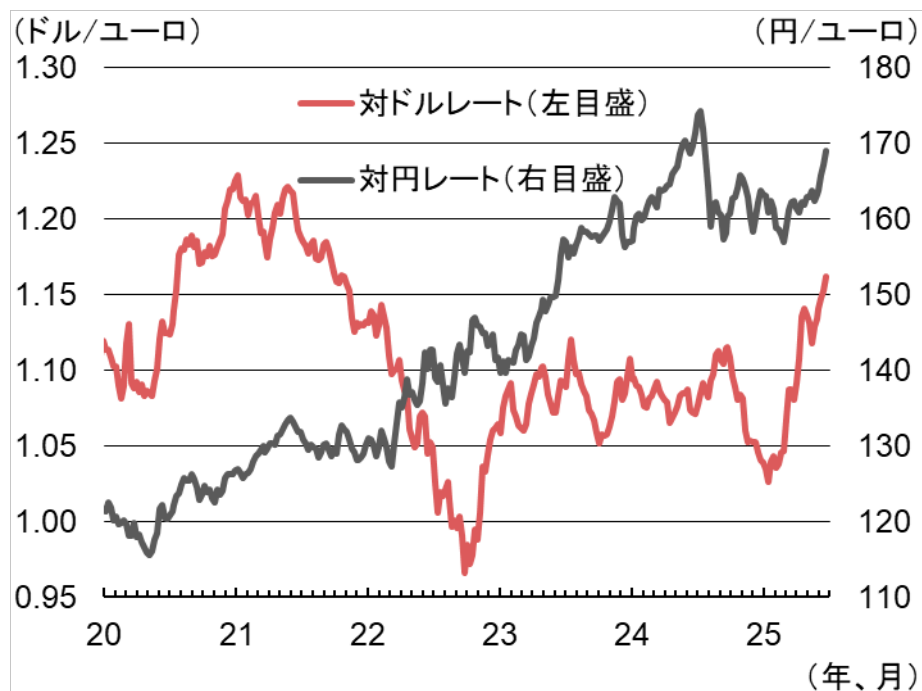


(出所) STOXX

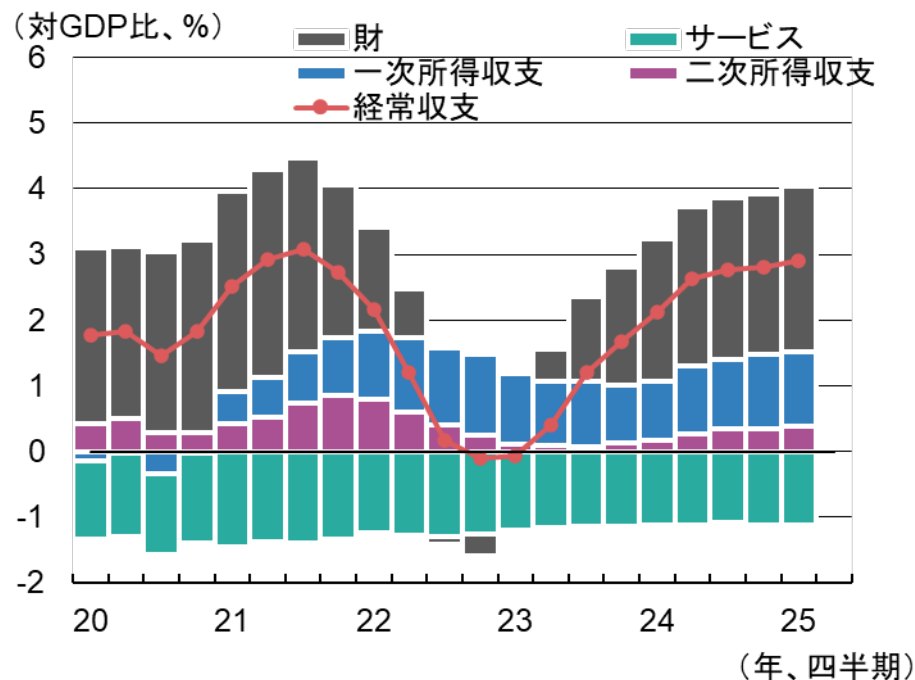
ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドル・対円で上昇

6月のユーロ相場は対ドル・対円で上昇。6月もECBは利下げをしたが、イラン情勢の緊張が緩和したことや米国の早期利下げ観測が高まったことでユーロ買いの流れに拍車がかかった。経常収支は財収支(貿易)黒字が拡大しており、実需面からのユーロ買い圧力が徐々に強まっている。

ユーロ相場



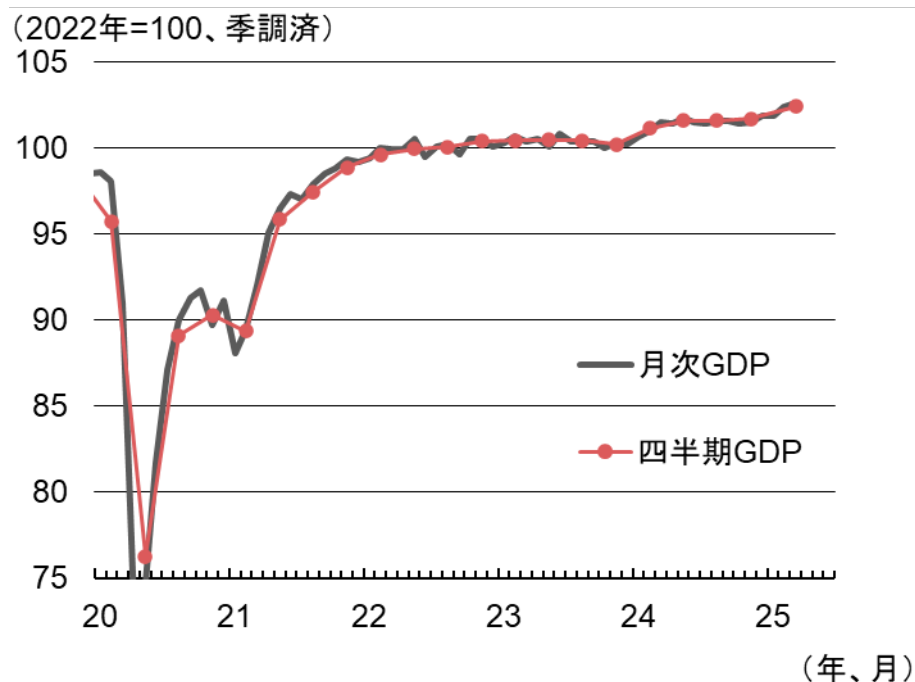
経常収支



英国景気概況① 景気は拡大している

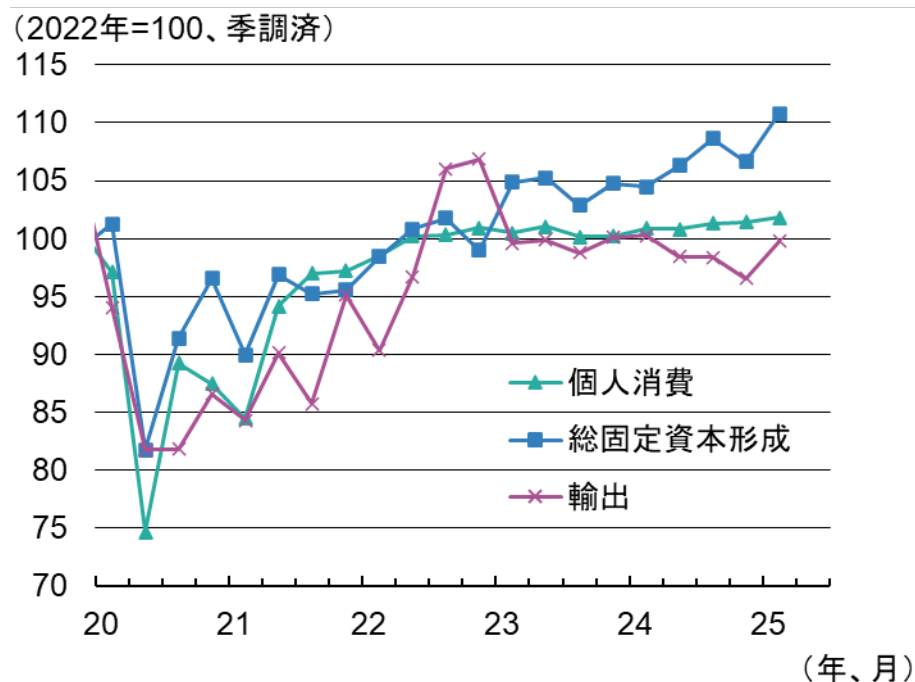
英国の1-3月期の実質GDP(確報値)は前期比+0.7%と、24年10-12月期(同+0.1%)から増勢が加速した。主要な需要項目別には、設備投資を中心とする総固定資本形成やトランプ関税の発動を前に駆け込みが生じた輸出が堅調に推移し、景気をけん引した。個人消費も前期比+0.4%と堅調だった。

実質GDP



(出所) 英国立統計局 (ONS)

主要な需要項目

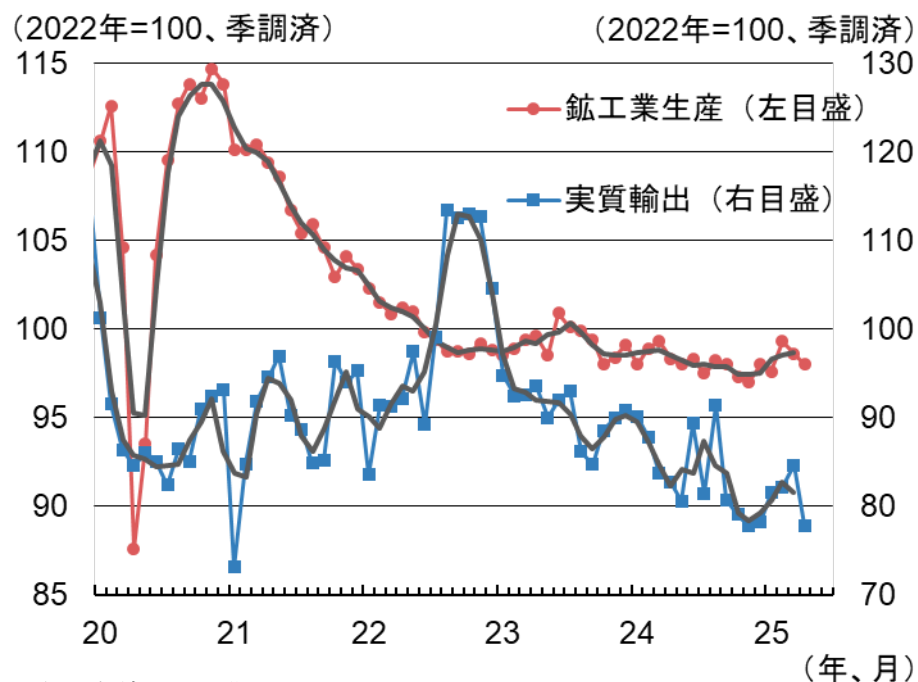


(出所) ONS

英国景気概況② 生産は足踏みしている

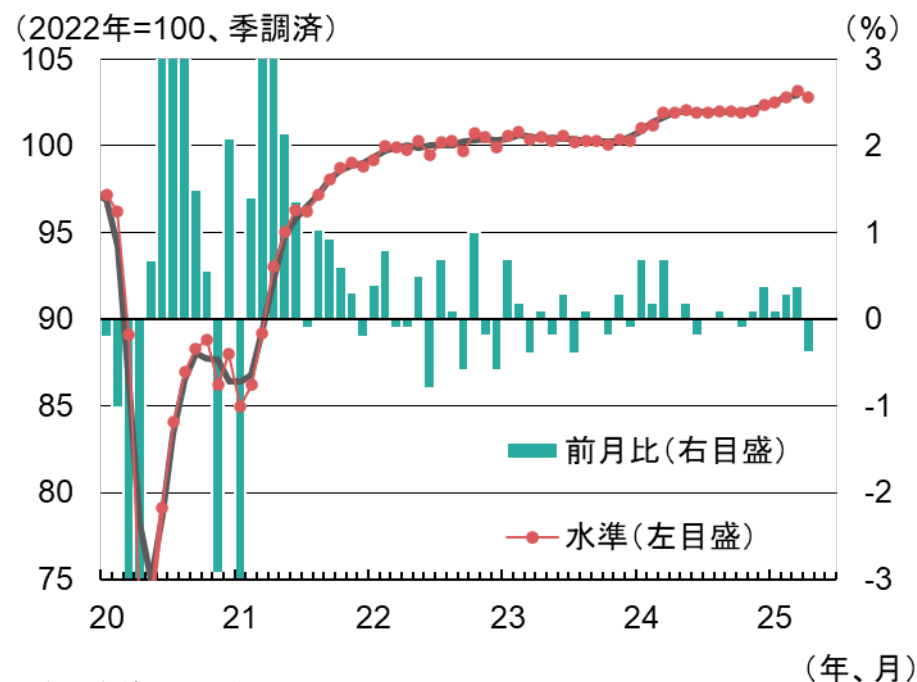
英国の4月の鉱工業生産は前月比▲0.6%と2カ月連続で減少したが、均した動きは横ばい。一方、同月の実質輸出は同▲8.1%と大幅に減少し、均した動きも横ばいに。トランプ関税の発動を目前とした駆け込みの反動減が生じたもよう。他方で、4月のサービス業生産は前月比▲0.8%と減少した。

製造業生産と実質輸出



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

サービス業生産

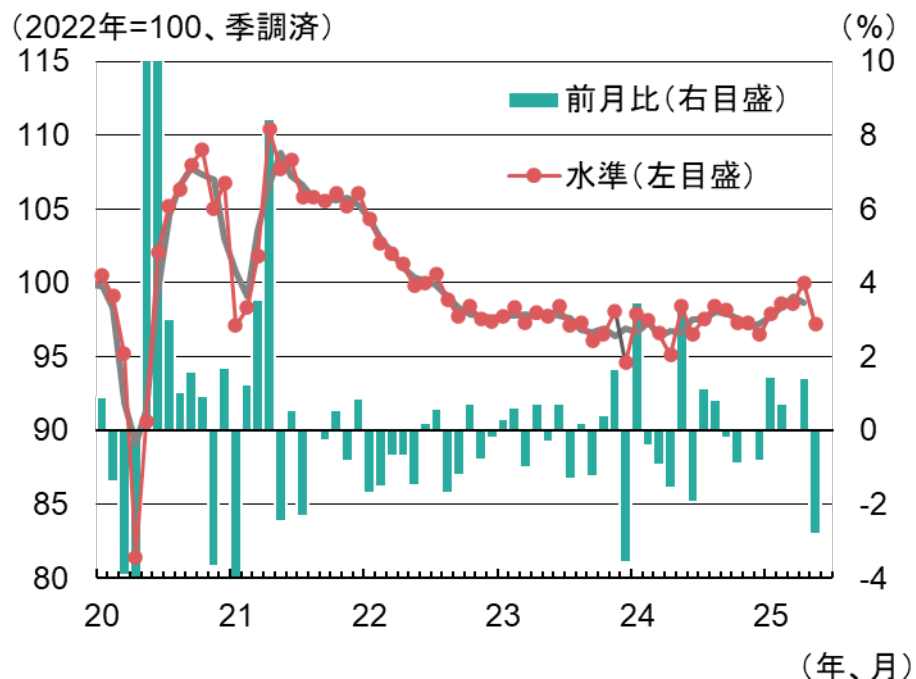


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

英国景気概況③ 消費は足踏みしている

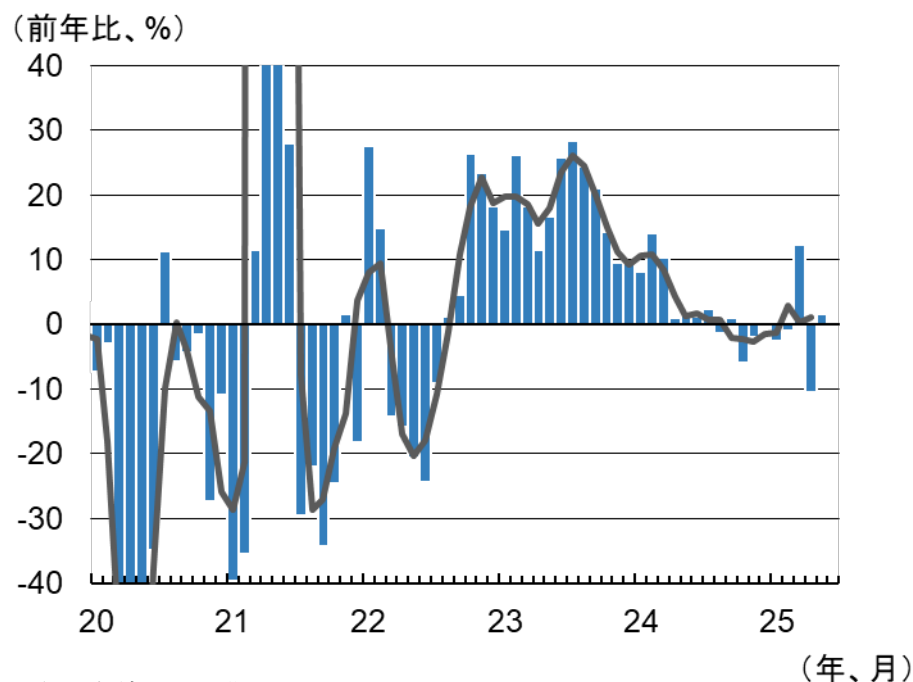
英国の5月の小売数量(除く石油)は前月比▲2.8%と大幅に減少し、均した動きは横ばい。一方で、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+1.6%と、再びプラスとなった。新車市場の規模は年率190万台後半レベルで横ばい。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

新車販売台数(乗用車)

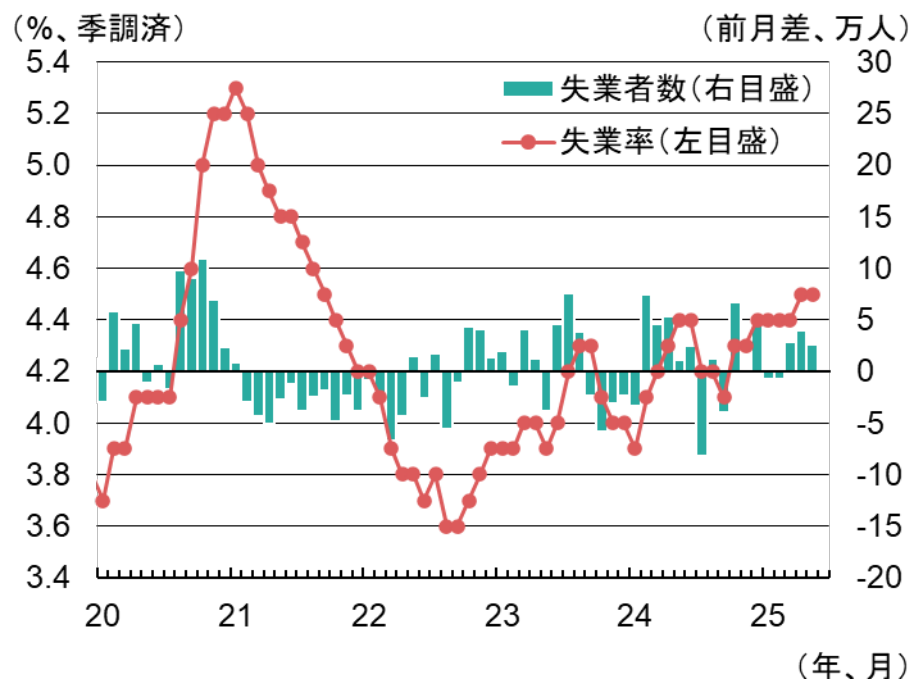


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 英国自動車工業会(SMMT)

英国景気概況④ 雇用は悪化している

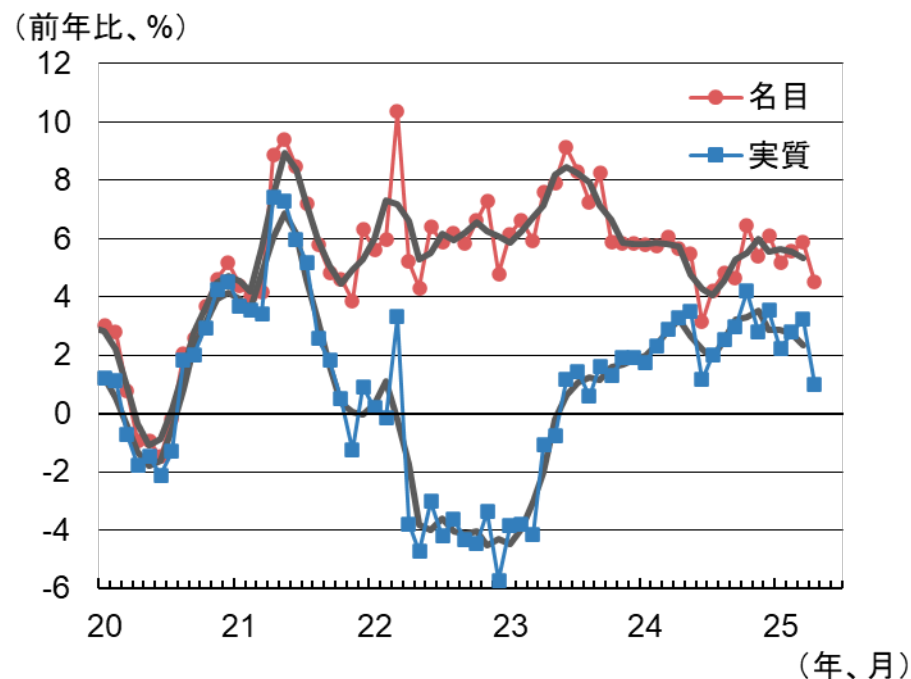
英国の4月の雇用統計は、失業率(2-4月期平均)が4.5%と2カ月連続で横ばい。一方で、失業者数は前月差2.6万人増と3カ月連続で増加しており、雇用は悪化していると判断。他方で賃金は増勢が徐々に鈍化しており、名目ベースだと前年比+5%近くまで、また消費者物価で実質化した実質ベースでも同+2%程度まで落ち着いてきた。

失業率



(注)3カ月の平均値
(出所)ONS

平均賃金(週給)

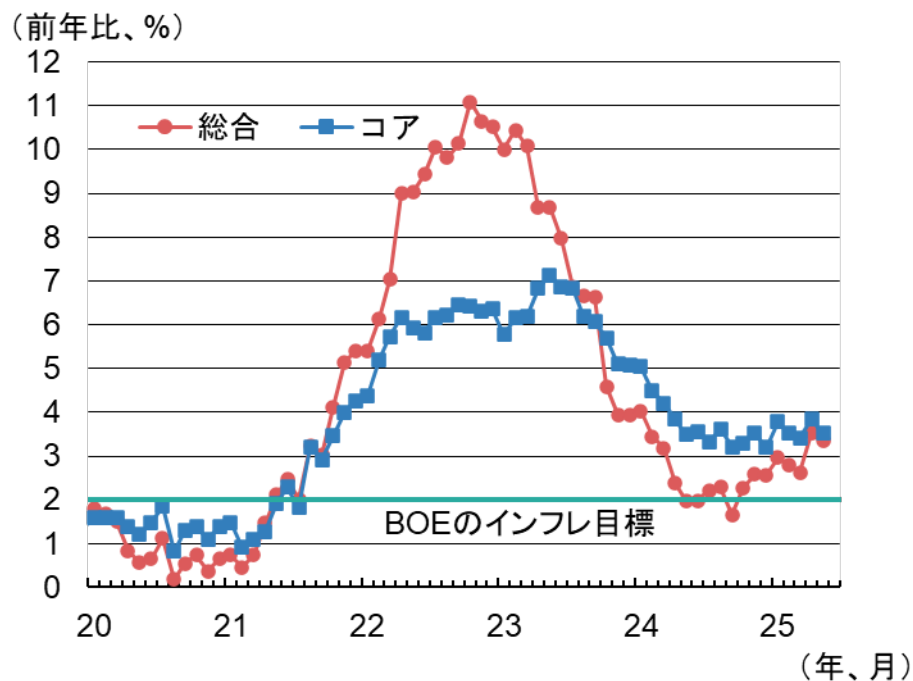


(注)灰色線は3カ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況⑤ インフレは高止まりしている

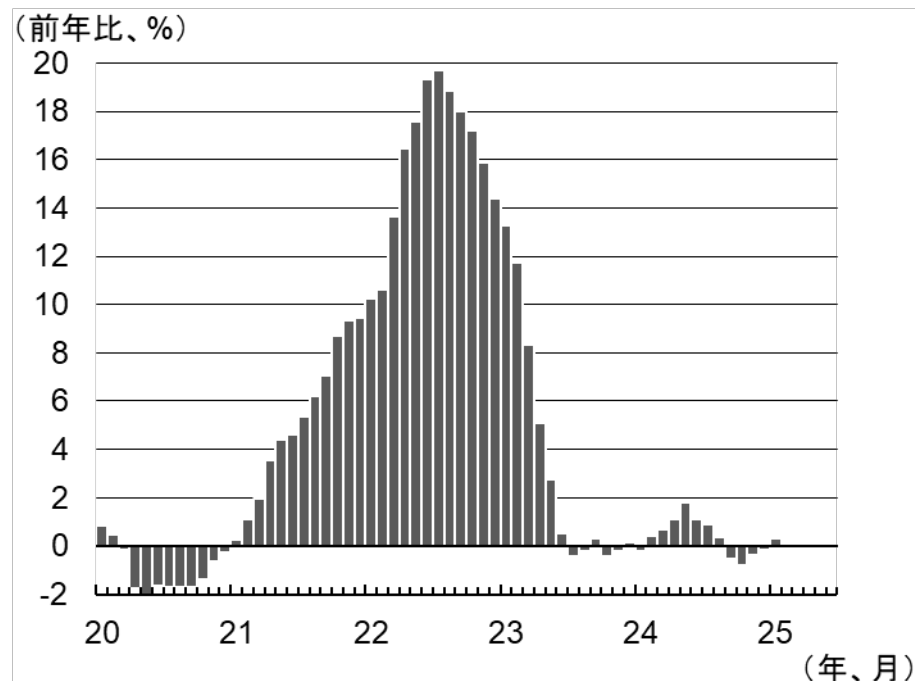
英国の5月の消費者物価は、総合ベースが前年比+3.4%と、また変動が激しい項目を除いたコアベースは同+3.5%とそれぞれ前月から伸び幅が縮小したが、インフレは高止まりしている。他方で、消費者物価の先行指標となる生産者物価（産出ベース）は、1月時点で同+0.3%と24年8月以来のプラスに転じた（以降、更新停止中）。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価

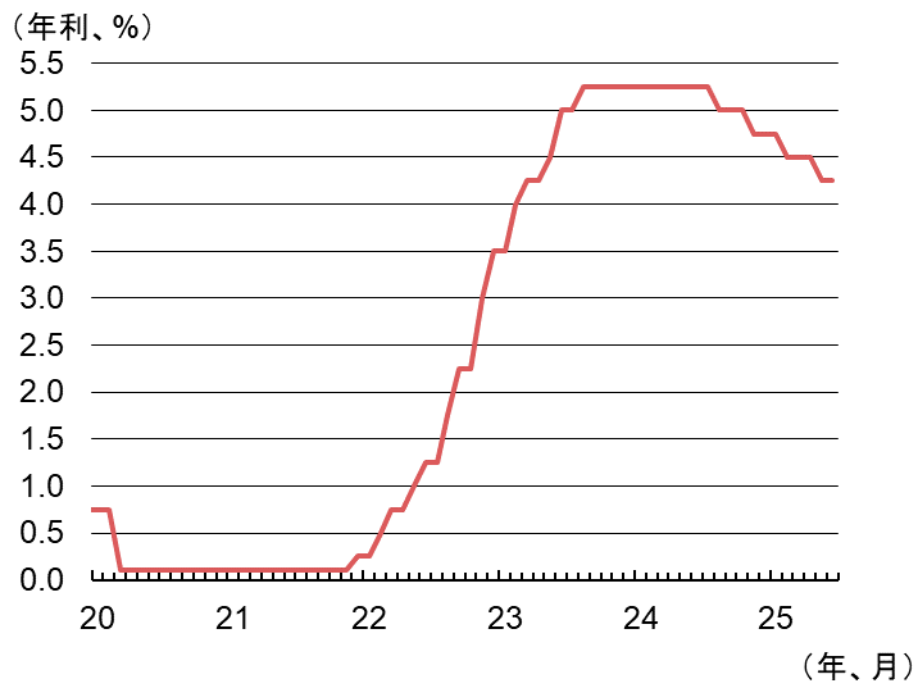


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは6月委員会で金利を据え置き

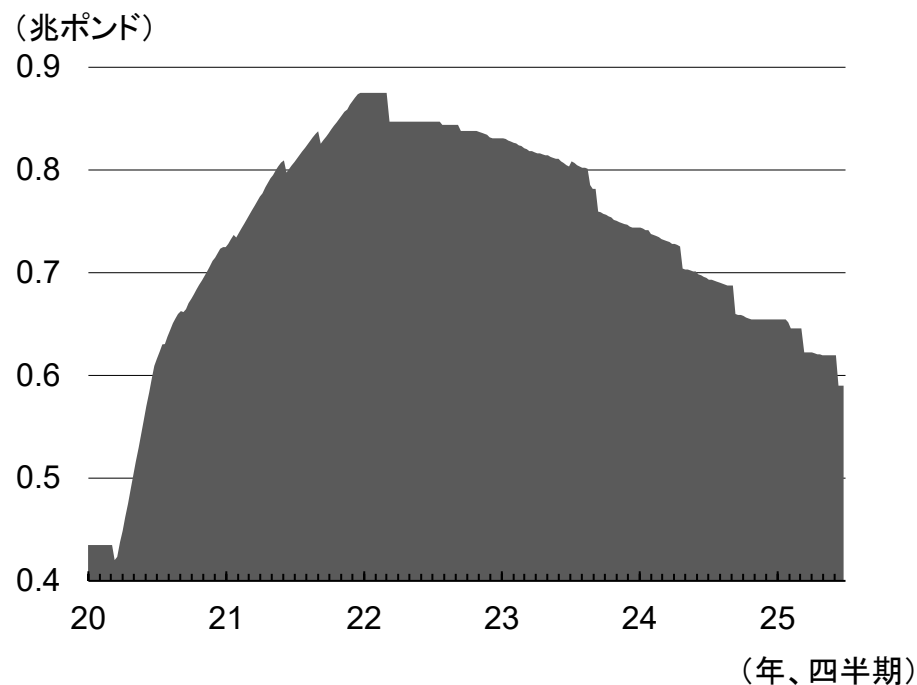
イングランド銀行(BOE)は6月19日に金融政策委員会(MPC)の結果を公表し、政策金利を年4.25%で据え置いた。労働需給が緩和しており賃金の増勢も鈍化しているが、一方でインフレは粘着的である。またトランプ関税の悪影響もあるため、BOEは追加利下げに慎重になっている。次回のMPCは8月7日を予定。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

BOEの国債保有高

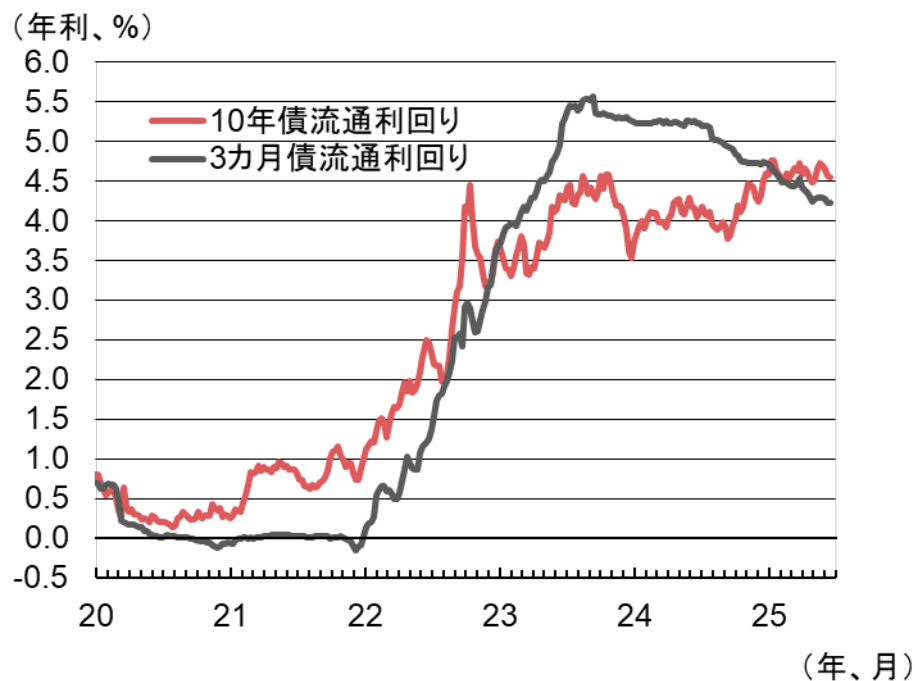


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は横ばい

6月の英国の長期金利は上昇。イラン情勢の緊張が緩和したことで金利が上昇に転じた。一方で、同月の株価は横ばい。月前半はイラン情勢の緊張で株価は下落したが、月後半はその緊張が緩和して株価が持ち直した。

長短金利(10年債と3カ月債)



(出所)BOE

株価(FT30指数)

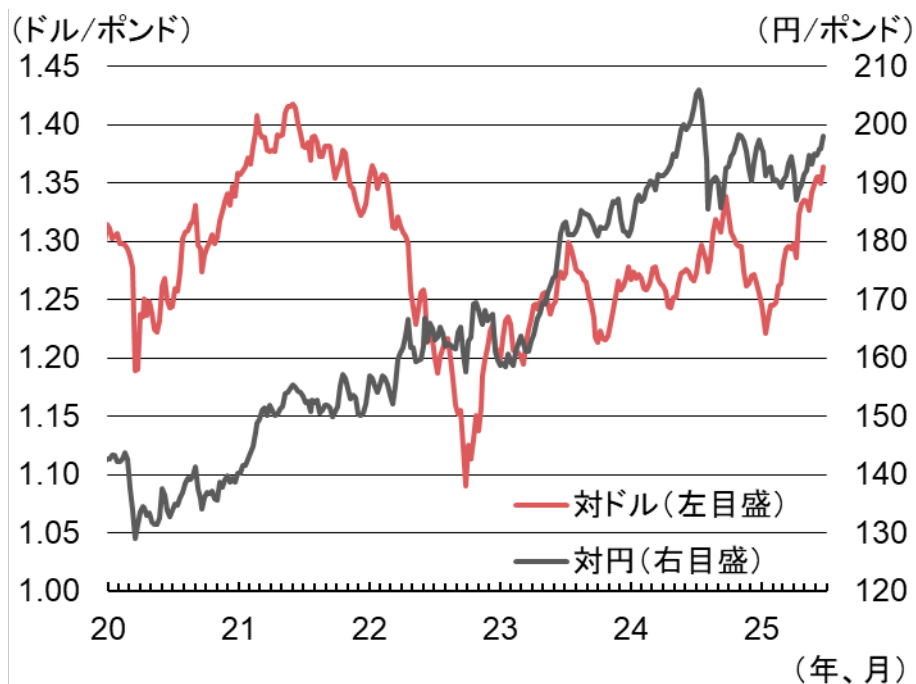


(出所)Financial Times

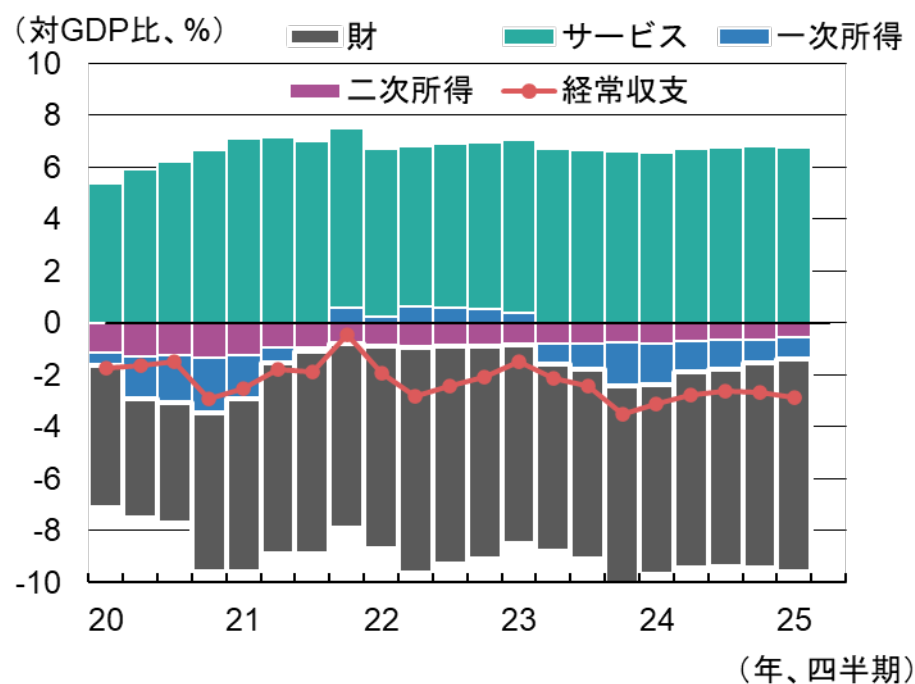
英国景気概況⑧ ポンドは対ドル・対円で上昇

6月のポンド相場は対ドル・対円で上昇。イラン情勢の緊張が緩和したことや米国の早期利下げ観測が高まったことでポンド買いが進んだ。経常収支は名目GDPの2%を超える赤字が定着しており、実需面からのポンド買い圧力は弱い。

ポンド相場



経常収支



ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 土田陽介

TEL: 03-6733-1628 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー